
影に守護される者（タイトル未定）

シャルル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

影に守護される者（タイトル未定）

【Nコード】

N3893Z

【作者名】

シャルル

【あらすじ】

とある世界のとある青年の物語。

青年はかつてナンバーで呼ばれる特殊な部隊の一員だった。

そんな彼が一人の少女のために部隊を裏切り

少女を助け、仲間を殺した。

7年後、少年は青年に成長し長く伸びた黒髪を引っさげて

再び少女の住まう王国へとその足を踏み入れるのだった。

少年と少女

純白の月が、天高く夜空を照らし、深き森の葉のカーテンの下へと糸のように

漏れ出ていた。

それらの光を頼りに、少年は喉を突く冷気を深く吸い込み、夜の森を駆ける。

息は徐々に荒々しく、足取りも重くなっていく。

少年ルイス・アルバーンは、息を凍らせ、足を酷使して、雪の森を

小さな少女を抱え、背後に迫る気配に注意を払いつつ走っていた。抱える少女は貴族のドレスを纏い、白く透き通るような肌と桃色の頬をした幼き10歳ほどの小さな少女。

少年はそんな少女を羽織っていたローブで包むと、道中に目に入った

穴に白い吐息と共に押し込んだ。

「しばらくここに隠れていてくれ……僕には君を守りながら戦うのは無理だから、でも……絶対に君を守ってみせるこの命に変えてでも……絶対に」

ルイスは少女の眠る穴を屋根のように厚みのある雪を崩し入り口を雪の壁で塞ぐと再び駆け出した。

月明かりに照らされるルイスの体には、多くの血が媚びれついていた。

しかしそれはルイス自身の血ではない。ここまでに傷つけてきた仲間の血

少女を助ける代わりに少年は大きな犠牲を払ったのだ。

友を救うか、仲間と共に友を殺すか。そんな苦渋の選択をルイス

は求められ

そして決断した。ルイスは友を選んだのだ。ナンバーだけの呼び合いでしか

会話をしたことのない仲間を捨て、名前を、偽りなき言葉を交わした

少女のためにルイスはすべてを捨てる覚悟で仲間を斬った。

- - -後悔は無い……

四方を黒色のローブを纏う仮面をつけた者たちに囲まれ、退路を失ったルイスは

腰にかけていた紅色の鞘から剣を抜き、強く握り締めると、冷たい吐息と共に

言葉を漏らした。

「長い間お世話になりました、隊長……。僕は今日で隊を抜けます」

ルイスの言葉に東に立っていた男が一步前に足を進め両手に剣を構えると、鼻で笑い、その言葉を切って捨てた。

「ナンバー01。仲間を斬り殺し、我々の標的までも奪い去ったお前を

このまま黙って見逃すとも思っているのか？」

男はルイスの目を見据え口元を僅かに緩ませると、さらに言葉を漏らした。

「その目は違うな、逃げる目ではない。獲物を食い殺し、仕留める目だ。

だがなあ、いくらナンバー01の実力を持っていようと、ここに

いるナンバー

一桁の猛者たちはそう安々殺られはせんぞ？ なによりナンバー
00のこの私が

いるのだからな」

男の血の赤のように鋭く殺気のおふれる眼をルイスは見据え、片
手で剣を

構え、殺気を全身纏わせて臨戦態勢の構えをとった。

ピリピリと全身に突き刺さる四方から向けられる殺気に当てられて
全身が寒さにふるえるように振動し、同時に胸の奥底で心臓が何
度も鼓動を耳に響かせる。

「同時にやるぞ！ 1…2…3…」

赤色の瞳の男が数字を口にした瞬間、一斉にロープを纏いし殺し
屋が行動に出た。

ルイスも同時に剣を宙へと振るう。

……

……

……

それは一瞬、刹那の出来事だった。

四人の者たちが一人の少年に切り裂かれ、声も上げず死ぬことも
悟られず

永遠の闇へと落ちたのだ。

上半身から切り離された首が、無造作に雪の残る地面へと転がり
白色だった雪の色は徐々に赤色に染まっていった。

ルイスは腕に残る震えを片手で抑え、鞘に震える手で剣を収める。

「誤りませんよ……僕は貴方たちの命を背負って生きて行きます。だから、どうか……安らかな眠りを」

ルイスは男たちの屍を背にして雪を踏む音を上げながら冷たい夜の森へとその姿を消した。

半日と立った頃、少女はルイスに引き連れられ、王国の管理する修道院に預けられた。

古くから王族の娘や貴族の娘は10歳の誕生日と共に修道院に7年間入り、身を清める

ことが習わしとされてきた。彼女の暗殺命令もその気に乗じて遂行される予定だった。

それをすべて破綻させ、ルイスは命がけで少女をここまで連れてきた。

閉ざされる門の先を見据え、ルイスは小さくつぶやいた。

「僕の大切な友達……僕のことを名前で読んでくれた大切な友達
これでさよならだね……叶うのなら、また遠い未来、君に出会
えたらいいなあ……」

悲しげな表情で、抱きかかえられる少女見据えて、ルイスは体を
翻し

その街を足早に去っていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3893z/>

影に守護される者（タイトル未定）

2011年12月13日10時46分発行